



八千代オイコス かわら版

第37号

平成30年6月15日発行

NPO法人八千代オイコス

<http://www.yachiyo-oikos.jp/>

子ども達と米づくり体験

5月6日(日) 参加者66名 スタッフ17名



米づくりを通した子どもたちへの願い ～子ども達と米づくり体験にあたって～

千葉県八千代市に住み、八千代市で友達を作り巣立っていく子どもたちに、八千代市を育ったところだけで終らせたくない、八千代市の良さを、もっと子ども達に知って欲しいという思いで「子ども達と米づくり体験」を計画しました。八千代市は、南部では都市化が進む一方、北部では緑豊かな田園風景が広がります。そういう八千代市だからこそできる体験、ふるさと八千代として、都会ではできない八千代ならではの体験をしてもらうことで、ふるさととしての八千代を感じてもらえれば幸いです。

計画に当たって、子どもゆめ基金より助成金を頂くことができたのも後押しになりました。半年という長い期間ですが、楽しく仲よくがんばりたいと思います。

(スタッフ 金室)

はじめての田うえ

小学3年 藤田 咲花

5月6日いっぱいあるいて田んぼについた。大人の人があるくのがはやかった。おいつくのがたいへんだった。はじめて田んぼに入った時、しんしょっかんだった！ニュルニュルしてペタペタして生ぬるかった。足をうごかすのがたいへんで、バランスがとれなくてパパとママにたすけてもらってすすんでいった。なえをかた手にギュッとをもって、一生けんめいにあるいた。ストップといわれてうえるばしょに立った。糸でうえるばしょをおしえてもらって、なえは3本ずつで、3ぼんゆびでチョンとうえた。はじめは、ういてきたりした。なん回もうえていたら、じょうずになってきてうえるのがはよくなってきた。どんどんうえていったら、なえがなくなったのでまたなえをもらってどんどんうえた。はじめきもちわるかった足のどろがきにならなくなっていた。手のどろもきにならなくなっていたら、なえをうえるのがすこしたのしくなってきたようなきがしてきた。そうおもっていたらたうえがおわっていた。

田んぼからでると足をあらいにいった。足をあらうところは、とてもこんでいた。足をあらって、タオルでふいて、キレイにしたらみんなでしゃしんをとった。おなかがすいておべんとうをたべました。今回だけでも、たんぼのことがよくわかりました。



参加者を迎える準備も万端



手植えのやり方を真剣に聞いています



4つの班に分かれて田植え

楽しかった田植え

小学4年 長瀬 碧

僕は田植えに行くとき聞いてびっくりしました。なぜなら、田植えをしたことがなかったからです。はじめて集まったときに見た映画がよく分からなかったけど、お父さんは続きが見たいと言っていました。

そして田植えをする田んぼの場所まで行きました。すると、雑草でいっぱいでした。だけど、2回目に苗を植えるときに行くと、雑草が一本もなくなっていました。後でお父さんに、苗を植えるために、係の人が田んぼをたがやし、水をはって、僕たちのために準備をしてくれていたんだね。って言ってたので、大変なんだなあと思いました。

そして苗を配られました。田んぼに入ると、ドロドロで入りにくかったです。だけど力を入れて歩きました。植える場所まで歩くと僕は、どんどん植えていきました。すると僕はバランスを崩して、転んでどろだらけになってしまいました。だんだん腰も痛くなってきました。だけど僕は田植えを続けました。それは頑張っけて植えることが、楽しかったからです。そしてやっと終わりました。

それからお弁当を食べて終わりました。お母さんが作ってくれたハンバーガーがとびきりおいしかったです。僕はこれからどういう風に苗が成長するかが楽しみです。

米づくり体験（田植え）に参加して

小学5年 椎名 美幸

今回、わたしは、初めて田植えをしました。説明会の時に、「ごはん」というえい画を見て、米づくりの大変な草むしりや、水の管理などを知りました。えい画の中では、機械で、いねのなえを植えていました。けれども、今日は、自分自身でいねのなえを植えることができ、見るよりも、やってみたので、とても勉強になりました。

例えば、自分では、ていねいに植えたつものの、なえが流れていきました。なえが流れていかないように、なえは、2～3センチメートルしっかりと、植え付けることが分かりました。

植えたなえ全部にお米ができるように、草むしりをがんばりたいと思います。半年後のしゅうかくが、今から楽しみです。

米づくり体験は、月1回しかないなので、集中して体験します。



田植えをしたよ

小学2年 川しま そうた

ぼくは、さいしょ田植えはかんたんだと思っていました。

でも、やってみたらみんなけっこうどろあびをしていたので、ぼくもなるかなと思いドキドキしました。

やっぱりどろあびをうけてしまい、「がーん。」と残念に思いました。

足がどろにはまったときにパパにつかまったので、パパのふくにどろをつけてしまいました。

そしたら、きづいたときにはパパのふくのあっちこちにどろがついていて、パパはびっくりしていました。

そのまま田植えをつづけてたら、まわりから、「もうやめたい。」という声がきこえました。

ぼくもやめたくなくて、パパに「もうやめたい。」と言いました。

でも、がまんしました。

そしてもう少しのところでおしりからドブンとどろの中に入ってしまった。

それが一ばんショックでした。

そして、通り道のぼしょに入ってぼくは「ふう、あと一列だ。」と思いました。

そして、はんちょうさんにいねのかたまりをわたしたら、「ありがとう。」と言われました。

それから、きがえてごはんをみんなで食べました。

そして全いでしゃしんをとりました。

しゃしんをとる前にアメをもらえたのでうれしかったです。

6月から8月までの草とりをどうやってするのかたのしみです。

こんどはうまくできるかなと不安に思っています。

でも、さいごの草とりのときにはうまくできるようになりたいです。

平成30年度 **活 動 予 定 表**

月	日	曜日	項目
4	1	日	広報やちよ(米づくり)掲載
	15	日	米づくり企画会議・第18回オイコス総会
	22	日	米づくり説明会
5	6	日	米づくり(田植え)
	13	日	米づくり(苗の補植)・定例会
	26	土	市民活動サポートセンター事業報告会
6	3	日	米づくり(草刈り1回目)
	10	日	花輪川作業・定例会
	15	金	かわら版第37号発行
	20	水	川の学校公募開始(チラシ学校配布)
	21	木	緑化公社苗配布(サルビア・小菊)
7	1	日	広報やちよ(川の学校)掲載
	1	日	米づくり(草刈り2回目)
	8	日	花輪川作業・定例会
	15	日	川の学校公募締切り
	22	日	花輪川作業・川の学校最終打合せ
	28・29	土・日	川の学校 in 花輪川
8	4	土	ホテル観賞会@石神谷津
	5	日	米づくり(自然観察)
	19	日	花輪川作業・定例会
	26	日	川の学校慰労会

月	日	曜日	項目
9	1	土	かわら版第38号(川の学校特集)発行
	9	日	花輪川作業・定例会
	16	日	米づくり(稲刈り・ハザ架け)
	23	日	ボーイ・スカウトディー
10	7	日	米づくり(脱穀)
	14	日	花輪川作業・定例会
	21	日	秋のエコウォーキング
11	9	金	(仮)緑化公社苗配布(パンジー)
	11	日	(仮)市民活動フェスティバル
	18	日	花輪川作業・定例会・米づくり(稲摺り)
12	8	土	オイコス忘年会
	9	日	花輪川作業・定例会
	15・16	土・日	米づくり(収穫祭)準備・餅つき会
1	13	日	花輪川作業・定例会
	15	火	米づくり(ゆめ基金)活動報告書提出
2	1	金	かわら版第39号発行
	10	日	花輪川作業・定例会
3	1	金	広報やちよ(春のエコウォーキング)掲載
	10	日	花輪川作業・定例会
	17	日	米づくり公募開始(チラシ学校配布)
	24	日	春のエコウォーキング

「八千代市民活動支援金制度」投票 (届出) のお願い

この制度は、市民の皆さんが、市民活動団体の中から支援したい団体を選んでいただくことにより、団体に補助金が交付される制度です。皆さんに投票していただくことで、「川の学校」で使う消耗品等八千代オイコスの活動資金の一部となります。今年も八千代オイコスへ投票 (届出) をお願い致します。

投票期間：6月1日～7月23日
 団体番号：25 (八千代オイコス)

詳細は広報やちよに掲載されます。



八千代オイコス団体番号

25

菜の花エコウォーキング

平成 30 年 3 月 25 日 (日)

全行程約 7.5Km



8 時 50 分、東葉高速線・船橋日大前駅（平成 9 年に関東の駅百選にも選ばれました）東口に集合。NPO 法人・八千代オイコスさんの案内で坪井近隣公園へと歩きます。起伏のある広い公園は市民の憩いの場。調整池には白鳥も訪れたらしい。夏はヘイケボタルの観察スポットとなっています。船橋市との市境にある八千代緑が丘はぐみの杜地区は市街地開発され街並みと広い道路が続ぎ、少し歩くと里山と谷津（谷戸）が広が

っています。谷津には紫木蓮が満開の花を上向きに凛と咲かせています。湧き水もあり、水田もあり、ホテル飛び交う石神谷津へと繋がります。整備された大きな孟宗竹林の山を昇ることしばし。里山散策の醍醐味です。貞福寺で小休止、この寺には八千代八福神と、なんとミニチュア四国八十八箇所巡りもあり、御利益てんこ盛りです。珍しいミツマタの花も。木の皮は紙幣の材料です。

いよいよ本番、オイコス保全活動花輪川ベースの清掃活動です。軍手とトンガ、ゴミ袋を持ち、菜の花を愛でながらゴミ拾いです。可燃、不燃、缶ビン、ペットボトルを分別しながら歩きます。

新川清掃参加の時に教えて貰った、市クリーン推進課の合言葉。「捨てればゴミ、分ければ資源」「ゴミ拾う人はゴミは捨てない」市民のマナーも良くなって来たのか、ゴミも少なくなった気がします。12 時 30 分、新緑の自然観察とゴミ拾いをしながらエコウォーク。いい気分解散。オイコス会員さん達の車に分乗して緑が丘駅へ。

(参加者 串崎)



3 月 25 日 (日)、快晴の中、恒例の菜の花エコウォーキングを実施しました。今年は船橋日大前駅からスタートして、約 7.5 km、3 時間のコースです。

自然との共生を目指し、市民の憩いの場所となっている坪井近隣公園、八千代市で人口が急激に増えている緑が丘西地区を通り北東部近隣公園へ。この地区は石神池から石神川に続く市内最大の谷津でしたが、現在は中流部から上流部の市街化区域では開発事業が進行し、上流部は既に埋め立てられています。開発された住宅地区では整備された公園も広がり、石神谷津ではホテルも鑑賞できます。整備された孟宗竹林を通り抜け、吉橋地区の産土神(ウズサ)で、誉田別命(ホダタワカミコト)＝応神天皇)、玉依姫命(タマリヒメミコト)・息長帯姫命(オシナガタビメミコト)を祀る吉橋城の武の神として創建されたという吉橋八幡神社に立ち寄り、八千代八福神の恵比須さんが設置してある貞福寺で一休みです。

休憩を終えた後、私たちのフィールドである花輪川周辺を菜の花を鑑賞しながらみんなでゴミ拾いをしました。

今回の参加者は歩くのが好きな人、自然が好きな人、私たちの活動に共感して参加して下さった人、参加が初めての人、複数回参加の人等で、いろいろな人に参加していただきました。散策しながらの語らいの中に改めてエコウォーキングのよさを感じました。街を歩きながら、八千代の歴史と自然にふれ、市民のみなさんとのふれあいを楽しんだ春の一日でした。

(スタッフ 藤田)



谷津ってどんなところ？

下総台地（千葉県北西部）に特徴的な平らな大地に樹枝状に深く入り込んだ谷の地形を谷津と呼んでいます。

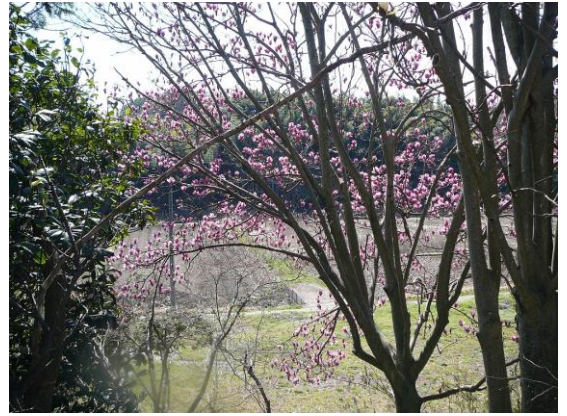
一方、里山は、山林、田畑、池沼、河川、集落等が組み合わされ、古くから人々の生活と結びついて維持されてきた環境で、谷津は里山に含まれます。

昭和 31 年の八千代市内には、49 の谷津がありましたが、平成 19 年では 9 か所と激減しました。現在は、八千代北部の北の谷津、島田谷津、石神谷津、南東部では、間谷谷津、森下谷津、勝田谷津などが残っています。谷津には、湧水、植物、昆虫などが生息し、生物多様性の宝庫でもあります。

八千代オイコスが活動の拠点としている花輪川のあたりは、花輪谷津、米づくりを始めた田んぼは、島田谷津と言われています。

山、田んぼ、川、神社、集落があり、懐かしい農村風景が、心を癒してくれる空間です。谷津へ出かけてみませんか、さわやかな風と緑色の濃さに、心がリフレッシュ！です。

(スタッフ 桑波田)



オイコスの環境活動

第 18 回目の総会を終え、また、オイコスの新しい年度の活動が始まりました。我々の目指す環境保全活動には終わりはありません。

例年春・秋に開催の“エコウオーキング”は、平成 19 年（2007）にスタートして 10 年余の歳月が経過しました。毎回やってもゴミの収集には終わりがありません。何故ゴミは無くならないのでしょうか。

オイコスのゴミ問題の取り組みは古く、NPO を立ち上げて 2 年目の平成 14 年（2002 年）に八千代市より委託を受け、市内全域の不法投棄廃棄物の実態を明らかにする為「ごみマップ」を作成しました。これはオイコスに一般市民数名と行政との協働事業として取り組まれたものでした。

当時国内の不法投棄は、深刻な社会問題化として対策が急がれていました。環境省資料によると、平成 12 年度の全国不法投棄量は 40 万強トンにも上っていましたが、なんと千葉県における投棄量は 30%にもあたる 12 万強トンを占めていたと言われていました。

八千代市内の状況も、オイコスの調査により 381 か所の不法投棄地点が確認されました。オイコスメンバーは 2 人 1 組となって、主に睦・阿蘇・村上地区を歩きながらの調査を行いました。やはり当時未開発地域の多かった市北部は投棄量が多く家庭一般ごみ、家電ごみから車に至るまで広範囲にゴミの山が築かれていました。

やがて市の対策＜不法投棄防止条例＞が制定され、パトロール・監視カメラ等の対応により現在の環境に整備されました。しかし、飲料缶・ペットボトルのポイ捨ては後を絶ちません。

オイコス“エコウオーキング”がごみ袋を持たずにウオーキングが出来たらもっと楽しいことでしょう。やはり投棄ゴミの無い環境づくりのために私たちができることは、たゆまず行事の継続を計り世に PR することではないでしょうか。

(一部やちよごみマップ資料参考)

八千代オイコス 代表 川瀬純一

編集後記

4 月 15 日の総会では八千代オイコスの各事業を確認し、今年度は「子ども達と米づくり体験」を重点的にやっということになりました。

秋には沢山の稲穂が田んぼを埋め尽くし、暮れの「餅つき会」では子どもたちが満面の笑みを浮かべてお餅をほおばる姿が目につくようです。(NONN)

発行責任者：川瀬 純一

問合せ☎：090-8511-3086

mail：info@yachiyo-oikos.jp